

● 「札幌市東日本大震災被災者支援活動基金」の設置について

札幌市では、平成 23 年 4 月以降、「さぽーとほっと基金（札幌市市民まちづくり活動促進基金）」に「被災者を支援するまちづくり活動」というテーマを設けて、市民や企業から寄付を募り、東日本大震災の被災者支援活動を行う市民まちづくり活動団体への助成を行ってきたところです。

このたび、この「さぽーとほっと基金」の仕組みを活用して、寄付および助成の目的を分かりやすく提示できる「テーマ基金」制度を新設し、その第 1 号として、平成 24 年 6 月 13 日から「札幌市東日本大震災被災者支援活動基金」を設置します。

これは、被災地の復興には、被災地や避難先での長期的な支援が必要となることから、より市民に分かりやすい名称の基金とすることで、被災者支援への思いを風化させることなく、支援の取り組みを継続していくために設置するものです。

札幌市では、より多くの被災者に必要な支援活動が行われるよう、同基金への寄付や同基金の活用を広く呼び掛けていきます。

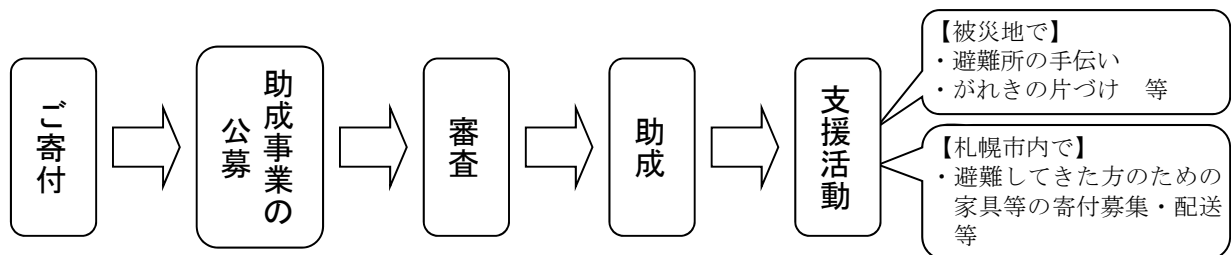
1 基金の名称

札幌市東日本大震災被災者支援活動基金

2 基金設置の目的

- (1) 分かりやすい名称の基金とすることで、市民の被災者支援への思いを風化させることなく、寄付や支援活動の継続を呼び掛ける
- (2) 長期化する市民活動団体による被災者支援活動に対し、安定的な財政支援を行う

3 札幌市東日本大震災被災者支援活動基金の概要



(1) 寄付の申出方法

寄付申出書に必要事項を記入し、市民活動促進担当課（〒060-8611 中央区北 1 条西 2 丁目 市本庁舎 13 階、ファクス：218-5156）に送付または持参。同課から郵送される納付書により、金融機関で納付。

(2) 助成事業の公募

第 1 回の公募予定は以下のとおり。なお、助成事業の申し込みに当たっては、事前に団体登録が必要。

- ① 公募期間 平成 24 年 6 月 18 日（月）～7 月 6 日（金）（必着）
- ② 公募額 1000 万円（1 事業当たり 50 万円～200 万円）
- ③ 公募対象事業 被災者を支援する市民まちづくり活動
- ④ 募集要項 6 月 18 日から同課や各区役所で配布するほか、ホームページ（<http://www.city.sapporo.jp/shimin/support/kikin/shien.html>）にも掲載予定。

(3) 今後の公募

寄付の状況や他の機関・団体による助成、被災者支援活動の状況を勘案しつつ、随時公募を行う。なお、1 事業当たりの助成額については、大型の事業や長期継続が必要な事業の需要などに応じて検討する。

4 広報活動

同基金のポスターやリーフレットに被災避難者である矢内 怜（やない・れい）氏を起用するほか、市内のイベントで、矢内氏から避難生活の体験談や被災者支援活動の現状等を講演してもらうことなどにより、継続的な支援の必要性を伝えていく。

【矢内 怜氏について】

1988 年、福島県生まれ。東日本大震災の影響で、福島県天栄村から札幌へ自主避難・移住。

2011 年 6 月、「福島子どもたちを守る会・北海道」を設立。被災地の子どもたちを一時保養に招く活動を行っている。

2011 年 7 月、豊平区にリサイクルショップ兼地域の交流スペースとなる「コミュニティー&ハンドメイドインテリア Balo(バロ)」を開設。

2012 年 3 月、「さぽーとほっと基金」の募金活動に参加。

2012 年 4 月、札幌観光大使フレンズに就任。

5 これまでの取り組み

平成 23 年 4 月に「さぽーとほっと基金」にテーマ「被災者を支援する市民まちづくり活動」を設定。

(1) 寄付額

平成 23 年度 38,919,114 円（89 件）

平成 24 年度 1,435,534 円（11 件）（平成 24 年 5 月末現在）

合計 40,354,648 円（100 件）

(2) 助成実績

平成 23 年度 9,465,000 円（14 事業）

平成 24 年度 3,000,000 円（5 事業）（平成 24 年 5 月末現在）

合計 12,465,000 円（19 事業）（差引残額:27,889,648 円※）

※ 差引残額は、「札幌市東日本大震災被災者支援基金」に算入し、引き続き、被災者を支援する市民まちづくり活動のための助成金として活用する。

【被災地活動型】

団体名		事業内容	助成額(千円)
23	北海道ブックシェアリング	不要な書籍を収集・選別し被災地に提供。被災地図書館の整備。	1,000
	NPO ねおす	釜石市で子ども保育や青空喫茶の開催	800
	東日本大震災市民支援ネットワーク・札幌むすびば	被災地や市内の団体と連携し、個人ボランティアを組織化し、派遣。	700
	NPO どさんこ海外保健協力会	医師による訪問健康相談、仮設住宅のコミュニティづくり、「震災後のまちづくり」シンポジウム開催	1,200
	NPO 地域健康づくり支援会ワントゥスリー	ふまねっと運動（認知症予防運動）のサポーター派遣により被災地高齢者の身体機能の維持、向上	800
小計			4,500
24	NPO どさんこ海外保健協会	被災地医療機関への医師派遣、仮設住宅健康相談訪問、シンポジウムの開催	1,000
	NPO コミュニティワーク研究実践センター	子どもの福祉と心のケアのため人形劇の開催	1,000
小計			2,000

合計 6,500 千円

【市内活動型】

団体名		事業内容	助成額(千円)
23	みちのく会 (避難移住者が設立した団体)	被災地から札幌への移住希望者向けの情報発信、被災者の自立への支援	465
	東日本大震災市民支援ネットワーク・札幌むすびば	市内の避難者を対象に支援物資の需給マッチング活動および支援物資の運搬活動	500
	一般社団法人札幌 YWCA	夏休みに被災者親子を招待し、心身のケアを行うため、野外活動や移住等の相談窓口の開設	500
	福島の子どもたちを守る会・北海道	夏休みに被災者親子を招待し、心身を癒すため、サマーキャンプ、スポーツ観戦、健康相談や被爆検査等の実施	1,000
	もみ西レインボーミニバス少年団親の会	陸前高田市の少年団を招待し、市内のミニバスチームと交流を図り、心身のケア等の支援	660
	東日本大震災市民支援ネットワーク・札幌むすびば	支援者、被災者の相談窓口の開設、支援活動間のコーディネート、支援情報の発信と情報交流	840
	みちのく会	会報の発行、メンタルや就職のカウンセリングと交流会、今までの活動の取りまとめ	400
	ようこそあったかい道実行委員会	一時避難受け入れ施設の運営強化、就活希望者マッチング	300
	福島の子どもたちを守る会・北海道	被災地における避難生活ニーズ調査、春休みに親子を札幌に招待し生活体験、避難者との交流	300
小計			4,965
24	東日本大震災市民支援ネットワーク・札幌むすびば	被災者、被災地、札幌市民の情報拠点活動経費	150
	Smile Change The World	夏休み親子サマーキャンプ	350
	みちのく会	震災直後、移住決断、移住後の3つに分けた避難者の手記を発行	500
小計			1,000

合計 5,965 千円

問い合わせ先

市民まちづくり局市民自治推進室市民活動促進担当課 望月・吉野・藤原

電話：211-2964